

## (5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)

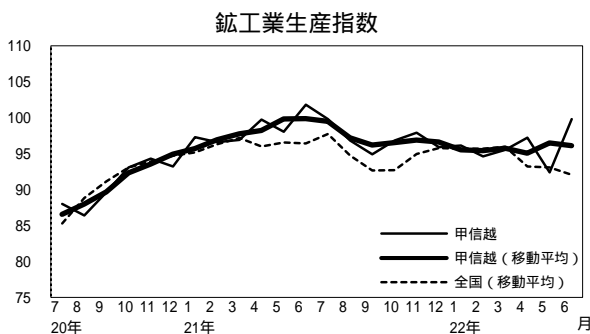
### 前回からの主要変更点

	前回(令和4年6月)	今回(令和4年9月)	
景況判断	持ち直しに足踏みがみられる	緩やかに持ち直している	
鉱工業生産	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	
個人消費	このところ持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している	

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4 - 6月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」が増加したこと等により、前期比1.1%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
電子デバイス、電気・情報通信	28.9	1.9	1.3	4.5	12.1	16.5
汎・生産・業務用機械	24.8	0.5	3.6	2.7	2.2	4.6
食料品・たばこ	12.0	1.6		3.0	2.0	
石油・石炭、化学、プラスチック	10.3	2.1	1.9	0.8	4.6	1.2
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.8	1.6	2.1	0.2	2.9	5.9
<b>鉱工業</b>	<b>100.0</b>	<b>1.5</b>	<b>1.1</b>	<b>1.8</b>	<b>4.9</b>	<b>8.0</b>

- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。甲信越の最新月は速報値。  
 2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。  
 直近月は2か月平均。  
 3. 甲信越は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 4 - 6月期、6月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。  
 3. 業種は内閣府にて分類。

## 2. 個人消費の動向

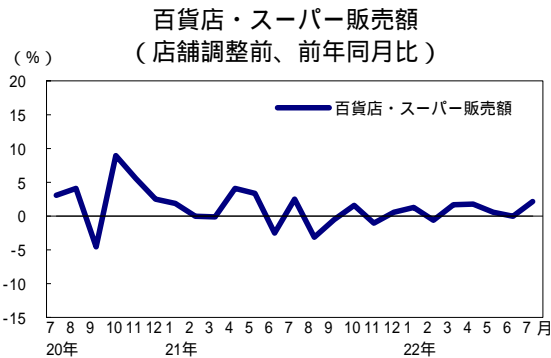
個人消費は緩やかに持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4 - 6月期は前期比 1.0%増となった。月別にみると、4月は前月比 0.4%減、5月は同 2.6%増、6月は同 2.1%減となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4 - 6月期は前年同期比 0.8%増となった。月別にみると、4月は前年同月比 1.8%増、5月は同 0.6%増、6月は同 0.0%増となった。



	2022年4 - 6月	2022年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	1.0	0.4	2.6	2.1	
百貨店・スーパー(*2)	0.8	1.8	0.6	0.0	2.2
乗用車(*3)	13.9	18.2	18.4	5.5	2.5
(季節調整値)(*3)	1.4	3.8	6.7	14.2	3.9

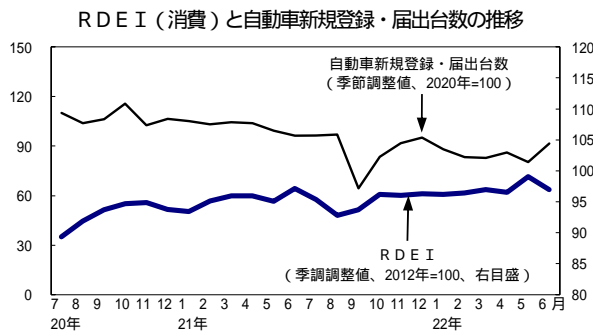
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

2022年7月は速報値。

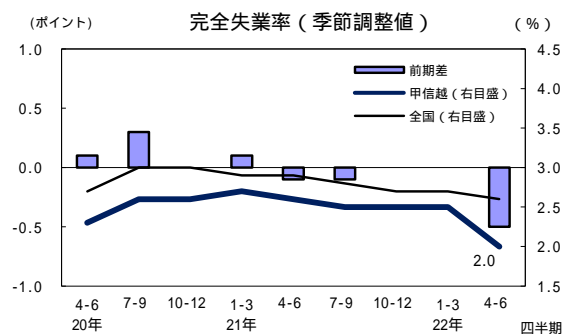
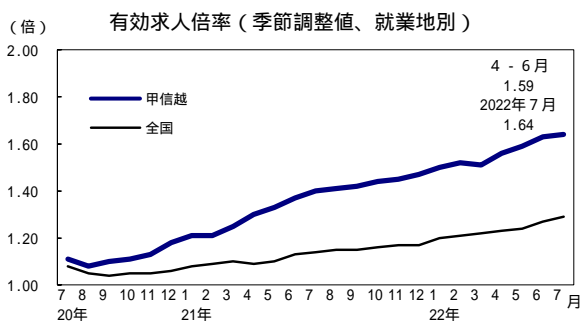
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比 (%)



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年8月調査）景気判断理由の概要

5. 甲信越

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由	
	現状	家計動向関連	□	・いろいろな物の価格が上がったこともあり、客単価というか買上点数がやや厳しい。やはり来客数が減っており、単価の高いたばこ等は増えているものの、日用品が厳しい状態である（コンビニ）。
▲			・新型コロナウイルスの新規感染者数増加に伴い急激に来客数が減少し、予約のキャンセル等が増加している。しかし、今までの新規感染者数増加時とは違い、利用客や行動する方が以前よりも多くいるため、極端に落ち込むことはなかった。ただし、団体や法人関係の利用はほぼ消失したので、結果的には悪化傾向にある（都市型ホテル）。	
○			・行動制限がなかったこの夏は観光客も増え、新型コロナウイルス感染症の発生前の70%くらいまで戻ってきているが、お金の使い方は渋くなっている（商店街）。	
企業動向関連		□	・受注量、販売量共に低迷している。新型コロナウイルス感染症の影響で、ワークショップ予約も減少している（窯業・土石製品製造業）。	
		○	・今月は部材の入荷があり短納期対応で忙しく、景気の良さも感じている（電気機械器具製造業）。	
		×	・仕入価格はどんどん上がってきているものの、値上げができず、利益を出すには厳しい状況である（食料品製造業）。	
雇用関連		□	・景気の上向きに直前で対応するため、契約、派遣、パート等社員の求人が増えている。正社員求人も増加傾向にはあるものの、採用に慎重な姿勢は崩していない（民間職業紹介機関）。	
		○	・新規求人数は前年7月以降、前年同月比で増加が続いている。有効求人倍率も前年8月以降は1倍を超えており、直近では、新型コロナウイルス感染症の発生前の水準まで回復しつつある（職業安定所）。	
その他の特徴コメント			○：半導体不足による新車供給遅延は続いているが、大量のバックオーダーが納入され始めている。新型車イベント効果もあり、足元の受注も順調に推移している（乗用車販売店）。 □：来客数は戻りつつあるが、食材の原材料価格高騰により、原価率が急激に上がっている。飲料等の仕入商材も軒並み値上げで、いよいよ当社も販売価格の値上げを強いられる状況になっている（観光名所）。	
先行き		分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・物価高に対する対策がないため、変わらない（家電量販店）。	
		▲	・ガソリン等の価格高騰が続いていることと、食品関係やその他、電気等、生活に直結した値上がり、じわじわと効いてくるので、若干買い控えが起こり、景気は悪くなる（百貨店）。	
	企業動向関連	□	・新型コロナウイルスの新規感染者数が多いなか、行動制限はせずに経済を動かしてはいるものの、物価上昇が続くことが予想されるため、厳しい状況になる（新聞販売店〔広告〕）。	
		○	・今年は天候に恵まれていて、今のところ、ヴィンテージイヤーが期待できる。また、円安に振れており、輸入ワインの価格がかなり値上がりしている、国産ワインには有利に働く。秋からの需要が望まれる（食料品製造業）。	
		×	・毎月の資金繰りが大変である（出版・印刷・同関連産業）。	
雇用関連	□	・就職活動状況に変化はなく、求職者は自分のスキル、会社側は給与等の見直しもせず、互いに好条件ばかりを求めている。将来に不安が募るばかりではないか（人材派遣会社）。		
その他の特徴コメント			○：新型コロナウイルスの感染拡大第7波が、秋になり落ち着いてくれば、会食の機会も増えてくる（高級レストラン）。 ×：これから秋冬を迎えるが、燃料費が高騰している状況だと、買い回り商材や物が売れなくなる（衣料品専門店）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（甲信越）の推移（季節調整値）

